

4 「ブロックの日」におけるブロック長の説明原稿

下記は、平成31年2月21日（木）大口中学校にて行われた「ブロックの日」におけるブロック長の説明原稿です。

生徒たちは、大口中学校で10年間行ってきたブロック活動を振り返り、ブロック活動を創ってきた先輩たちの思いや願いを確かめ、その価値を後輩の生徒に伝えようとしています。

この発表原稿を読む中で、ブロック活動が、大口中学校の10年間の生徒たちの自治・自浄能力の情勢の場であったことがうかがえます。

平成30年度 2月21日（木）

『ブロックの日』 プレゼンテーション原稿 大口中学校ブロック長会

平成20年、大口北部中学校と大口中学校が合体し、現在の大口中学校ができました。当時、大口中学校は「多様な教育に対応できる」「安全で人にやさしい」「環境に配慮した」「地域に開かれた」「情報化に対応できる」学校を目指してつくられました。

新しい大口中学校の制度を作る際、地域の人々の会議により、大学で使用されている「教科センター方式」を採り入れ、生徒が先生に質問しやすい環境が整えられました。

教科センター方式を取り入れている学校では、使用する階段を分けるなど、異学年と交流せずに自分の学年を大切にするという制度がとられていました。大中の従来やり方では、教室移動に無理があるため、ブロック制度が採り入れられました。○福井県の丸岡南中^{まるおかなみちゅう}や至民中^{しんみんちゅう}に、ブロック制度の仕組みや利点などを視察しに行くなど、多くの人々の努力によって教科センター方式やブロック制度は大口中学校に採り入れられたのです。

次に、ブロックやブロック長が誕生した背景について話します。もともと、大中にはブロック制度があってもブロック長という役職がないために、生徒会長などの生徒会でリーダーが組織されていました。そこで、大中2年目の秋、臨時の生徒総会が開かれました。

「生徒会の名を失ってもいい。各ブロックでリーダーを作ろう！」この言葉は、大中2年目の、後期生徒会の3年生が言ったものです。受験などで有利と

なる生徒会の名を捨ててまで、大中の伝統や理想を次の年につなげるために、後期のリーダーを2年生に託したのです。「いつまでも、大人から与えられたままではだめだ。」そんな先輩方の強い愛校心から、後期は2年生がブロック長として学校を創り、3年生がその2年生のリーダーを支えて伝統を繋ぐという仕組みができました。

まだ大中の歴史が少なかったころ、学校の伝統を一から作っていく上で、「自治」を意識して様々な活動が行われました。

ブロックで活動をしていく中で、昼間だけいい子ではブロックはまわりません。誰に、どんな仕事を与えたらいいのか。どの人に、どんな長所があるのかを知り、学校での活動で活かすため、3年目のブロック長が提案してブロック宿泊研修が始まりました。

最初はブロックの日という名前でした。4月の始めの一日をブロックの日とし、そのほとんどの時間を会議にあて、よりよいブロックを作るため、試行錯誤して、活動が進められたのです。

生徒自身がブロックで1日を過ごすという活動を提案し、実行するというのは、大変な苦労があったことと思います。先輩方が築いたブロック宿泊研修という素晴らしい行事を、私たちは引継ぎ、よりよいものにしていく必要があるのではないのでしょうか。

現在も行っているブロックが多い「ブロック係活動」は、開始当時、効率的に短時間で大中の課題を解決するために、ひとつの手段として行われていました。他にも、掃除がちゃんとできていないという課題が出れば、掃除について営業している会社、株式会社ダスキンの人を呼んで掃除のやり方を徹底的に教えてもらう「トイレ革命」なども行われました。

みなさんは、ベルマーク運動を知っていますか。当時のブロック活動には、新しくできた北小学校に遊具を買おうために、ベルマークを集める活動がありました。北小の遊具は最終的には町が負担して作られましたが、何万枚と集まったベルマークは、大中のランチルームにある配膳台に変えられました。

平成21年12月17日、校歌披露会が催されました。

ご存じのとおり、大口中学校の校歌は谷川俊太郎さんが作詞、谷川賢作さんが作曲した曲です。

作詞者である谷川俊太郎さんは、17歳から詩を書き始め、21歳の時に初めての詩集「二十億光年の孤独」でデビューしました。合唱曲でもある「信じる」や「春に」など有名な作品を多く手掛けています。はじめに、校歌に込められた想いを話します。作曲者である谷川賢作さんは、メロディーを歌

いたかったのに、卒業した学校でも女性パートがメインの校歌だったそうです。そんな経験から校歌を作るときに、男性パートと女性パートを入れ替えてみようと考え、男性パートがメインの大口中学校の校歌が生まれました。また、息を合わせて素敵な合唱を聞かせてほしいという思いも込められています。次に谷川俊太郎さんからのメッセージをお伝えします。「大口中学校の生徒・先生方が共感をもって歌えるような歌詞を書きたかった。校歌は何世代にもわたって歌いつがれるものだから、卒業後も同窓会などでうたわれることもあるかもしれないと考え、時代によって受け取り方が変わってしまうような言葉は避けるようにした。息を合わせて素敵な合唱を聞かせてほしい。」谷川俊太郎さんが作った、世界で一つだけの大口中学校の校歌です。想いをこめてしっかりと、大切に歌い継いでいきましょう。

最後に初代生徒会の方と実際にお話しをうかがった先輩方のメッセージを皆さんにお伝えします。

初代生徒会の方からは「教科センター方式という珍しい制度がせっかくあるので、ポジティブに考えてこの方式を楽しんでほしい。また通常であれば他クラスとのかかわりが少なくなるが、教室移動でいろんなクラスの子と話す機会が増えたと思う。そういった日常を大切にして貴重な学生生活を送ってください。」とありました。

実際にお話しを伺った先輩方からは動画でお伝えします。(先輩の動画) ○(動画) → ○(動画)

また、この2人の先輩方は、「ブロック制度はみんなに取り組んでほしいことをみんなに託した。当時はみんなが協力してくれたし、みんなで一つのことができたから、ブロックのために頑張ることができた。」とおっしゃっていました。

私たちは去年から、今日のブロックの日に向けて大中の歴史を学び、ブロック制度について深く考えてきました。しかし、3年生は卒業してしまうので、先輩方の強い思いを受け継ぐのは1, 2年生しかいません。これから先何年たっても、成長し続ける「誇れる大口中学校」であってください。

(2年)

先輩方の思いを受けて、私たちなりにこれからのブロック活動について考えてみました。

大口中学校のブロック制度、ブロックの原点とは、異学年と交流することによ

り、生徒みんなでよりよい生活を送り、先生・生徒全員がブロック活動に参加できることです。

また、今年度の生徒会テーマは「積み重ね」でしたが、そのテーマに沿うと雰囲気だけになってしまいがちで活動の幅がせまくなってしまいました。なので、各ブロックの個性をいかした活動を行うために来年度から生徒会テーマが『愛校活動』になります。

ブロック活動は大中に関わる人全員が参加する活動です。そこで四月初めのブロック総合を「ブロックの日」という時間にしました。目的は、皆さんのブロック活動に参加する意欲を高めてもらうこと、また新一年生にブロック活動についてしっかりと理解してもらうことです

「ブロックの日」では、各ブロックで決めた生徒会テーマのサブテーマを発表します。そして、先ほどみなさんに見てもらったスライドを流し、ブロックができた背景や先輩方の想いを確認します。そして、今年度テレビ放送で行ったブロックカラーの抽選をみなさんの前で行います。

一年間のブロック活動の土台となる日にしましょう。

今日の「ブロックの日」で私たちの想いは伝わりましたか。
先輩方の想いを受け継ぎ、大中に関わる人全員で大中を創り上げていきましょう。

ご清聴ありがとうございました。

(このページ余白)